

2022（令和4）年度 公益財団法人そらぷちキッズキャンプ 事業計画

（前提）

- ・2022年3月に策定する本事業計画では、新型コロナウイルス（新種の変異株含む）感染症拡大による、北海道内、日本国内、そして世界全体への様々な影響を想定し、コロナ禍3年目として慎重な姿勢での計画立案を行う。
- ・本年度は、新たな(with コロナ)中期事業計画の「初期段階」と位置付け、段階的に計画を実行に移す。（「新たな(with コロナ)中期事業計画」は別紙参照。）

I 事業目的及び実施方針

1. 事業の目的（定款記載事項）

本法人は難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL（生活の質）」の向上や、心のケアに寄与することを目的とする。



「キャンプ場内・見晴らしの丘からみた建物群」

2. 本年度の事業実施方針

小児医療分野の補完的なサービスを提供する当財団としては、事業の実施にあたって、新型コロナウイルス感染症対策を第一に考えるものとし、その上で、

難病とたたかう子どもと家族に対し、安全で質の高いキャンプが継続的に提供できるよう、「SeriousFun Children's Network（以下SFCNという）」の要求水準に準拠したキャンプの実施および、運営体制の確立、施設・設備の整備を行う。

SeriousFun Children's Network
故・ポールニューマンが創設した国際キャンプ団体。
当財団は2016年に正会員として認可された。

また、安定的な財政基盤をつくるため、多様な寄付の枠組みを開発し、支援者数の増加を図るとともに、新たな継続寄付企業・団体の獲得を目指す。

組織運営にあたっては、持続可能な運営体制を構築するため、事業・業務の整理及び人材配置・労務管理の適正化を図る。特に具体的な人材配置・労務管理適正化の方針として、2,3年をかけて新たな人材の発掘・育成を重点的に行うこととする。組織体制は、中期事業計画にある新たなチャレンジ等に対応できるよう、柔軟に変更する。

II 事業内容

1. 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施（キャンプ事業）

■活動(1):継続

難病とたたかう子どもとその家族を、全国各地から招待してキャンプを実施する。

感染症対策を徹底するため、1 キャンプ 1 家族ずつの参加を原則とする。

→本年度について宿泊キャンプは年間 5 回、日帰りキャンプは年間 8 回を計画する。

(前年度は、宿泊 4 回、日帰り 4 回のキャンプを実施。)

○小児科医が同行する宿泊ファミリーキャンプ(レスパイトキャンプ)

→計 5 回、5 家族参加予定

協力小児科医が同行する 3 泊 4 日のレスパイト

(一時的休息) キャンプを企画、準備、実施する。

(本年度は、国立がん研究センター、聖路加国際病院、国立国際医療研究センター、東京医科歯科大学病院、成田赤十字病院他へ相談予定)



「馬ふれあい(前年度の宿泊キャンプ)」

○日帰りファミリーキャンプ (セラピー乗馬中心)

→計 8 回 (夏季)、8 家族参加予定

特に滝川近郊や、札幌・旭川圏を対象とし、協力病院・施設を通じて利用者への呼びかけを行う。

(本年度は、滝川市こども発達支援センター、道立旭川子ども総合療育センター、北海道難病連、北海道大学病院他へ相談予定)



「馬のお世話(前年度の日帰りキャンプ)」

上記2種類のファミリーキャンプを、感染症対策を徹底しながら、開催するとともに、今後の展開を想定し、キャンプの年間実施回数や各キャンプの参加人数を増やした場合の適正な実施体制や運営手法の検討もあわせて行う。



「石窯でのピザ作り(前年度の宿泊キャンプ)」



「見晴らしの丘登山(前年度の宿泊キャンプ)」

■活動(2):継続

キャンプが安全に運営できるようにソフト・ハード面でサポート体制を充実させる。

○医療・食事支援体制等の充実

キャンプ実施期間中、医療棟(ほけんしつ)を拠点とし医療支援を行うとともに、キャンプ前後の保護者・主治医へのヒアリング等、きめ細かなキャンパーフォローを実施する。

今後のキャンプ回数増加等に対応するため、医療機関との連携強化に加え、継続的に医療スタッフ、ボランティアの募集・育成を行う。

また、キャンプ中の食事を安全に継続的に提供できるように厨房の設備や運営体制の充実を図る。

継続的に食事ボランティアの募集・育成を行う。

(本年度、主に対象とする宿泊・食事を伴う

キャンプは、レスパイトキャンプ5回。)



「流動食などにも対応する食事提供」

○キャンププログラムの充実

安全かつ楽しいキャンププログラムの提供を行うとともに、馬アクティビティや、森あそび、雪あそび等、プログラムの充実に必要な施設・道具の整備を行う。

・夏季キャンプの中核プログラム、馬アクティビティの実施のため「北海道障がい者乗馬センター」の協力を得て、対象となるキャンプごとに、調教されたセラピー馬及び障がい者乗馬インストラクターを配置する。また馬アクティビティを運営するための当財団側のスタッフ(有償、無償)の充実を図る。

・森あそびを充実させるため、ツリーハウス周辺のプログラム関連施設・設備の継続的な追加整備・補修を行い、またツリーハウス内のアクティビティ内容(お茶会等)の充実を図る。(ジップラインや展望デッキ、アプローチ園路整備等)

・雪あそびのための必要な施設、設備、道具を充実させる。



「車いすで行けるツリーハウス(冬)」



「場内ゲレンデでのシットスキー(過年度)」



「乗降用スロープ付馬房施設(前年度)」

○ボランティア募集・調整

これまで、人的な支援の申し出(ボランティア希望者)に関して、ボランティア登録を行い、宿泊研修会やイベントの案内、活動報告資料などの郵送を行なってきたが、不特定多数が集まってボランティア活動を行うことが見直される状況や、少人数のボランティア活動であっても、極端に少ない機会になってきているため、前年度よりボランティア登録制度を廃止し、代わりにフェイスブックやインスタグラムなど、SNS のフォロワーとしての登録を依頼する。

有償スタッフ以外の人的支援が必要となる場面としては、機会は多くないが、医療食事、馬アクティビティ、キャンプ、維持管理、広報 PR の事業があるため、その募集にあたっては、これまでのボランティア活動経験者(団体含む)に声をかけ、感染対策を徹底した上で、少人数のボランティアの受け入れを行うこととする。

学生等のインターン(無償・有償)については、人数や時期を限定、感染対策を徹底した上で、必要に応じて受け入れを行うこととする。(新卒の正職員採用をする際には、夏季インターンを必須条件とする。)



「連携大学による維持管理ボランティア」

○キャンプ場(建物・草地・森)の維持管理及び整備

安全で快適なキャンプ提供のための施設維持管理を推進するとともに、施設および設備の効率的な管理等を徹底し管理コストの軽減を進める。また必要な施設等の整備を行う。

- ・主要施設群「食堂&浴室棟」「宿泊棟2棟」「医療棟(ほけんしつ)」「事務棟」「ゲストハウス」「倉庫棟2棟」「大あずまや」を管理するとともに、車いすで行けるツリーハウスや関連施設、森・草地の維持管理を実施する。
- ・浄化槽等の設備管理、草刈り、除雪等の屋外管理、施設清掃等については外部委託を拡大するとともに、維持管理ボランティア(地元支援団体・企業等)も可能な範囲で積極的に活用することにより、人件費等のコスト軽減を図る。なお、維持管理の外部委託について、可能な範囲で、福祉対象者の就労につながるよう、地元福祉団体への委託を検討する。
- ・施設利用者が安全で快適に過ごせるよう、必要設備の設置や軽微な改修を行う。
- ・中長期的な施設及び設備の改修・修繕計画を策定し、計画的に改修・修繕費の積立を行う。本年度は、計画の一環としてゲストハウスの屋根塗り替え、大浴場ボイラーの入れ替え、屋外維持管理乗用機器、除雪機の更新等を行う。



「建物群と森林・草地(16ha)」

■活動(3):新規

難病の子どもたちが過ごす、全国各地の病院(病室)や自宅に「楽しみ」を届ける。

病院や自宅での闘病生活へ、以下の北海道の自然体験に関連した「楽しみ(良い刺激)」を届ける。(送り先:全国の協力病院や元キャンパーの自宅)

○スノーギフト

キャンプ場に積もった雪を専用のスノーボックスに詰め、冷凍空輸にて、雪が積もらない地域の病院や施設に贈る。 協力:小野薬品工業

○自然体験VR映像 ※VR (Virtual Reality)とは、疑似体験できる映像技術のこと。

キャンプ場で撮影した自然体験VR映像(夏・冬)の上映会を、病院で開催してもらうため、専用機器を1ヶ月単位で貸し出す。プロジェクター映写(出力)が可能なので、病室のプレイルームなどでの上映、親子での体験が可能。 協力:フジテレビジョン CSR チーム他

○キャンプ用品

闘病生活においてキャンプの雰囲気を感じてもらうため、元キャンパーや協力小児科医に対し募集を行い、当選者へキャンプ用品をプレゼントする。 協力:コールマンジャパン

○ウォールステッカー

北海道に生息する動物を描いた、貼って剥がせるウォールステッカー。 協力:DADWAY



「小児病院内での雪遊び(スノーギフト)」



「制作した馬車操縦のVR映像」



「自宅近くの公園でキャンプ用品を活用」



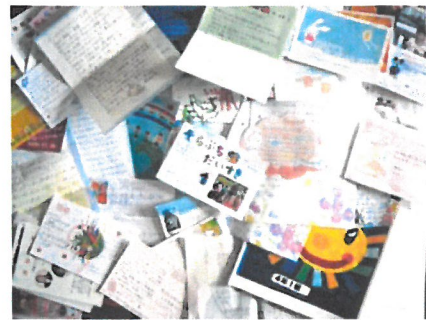
「ステッカーで入院中の病院を飾り付け」

■活動(4):継続(一部新規)

元キャンパーたちへ、医療ケア付キャンプ場としての応援メッセージを送り続ける。

○クリスマスカード他の送付

これまで、過去にキャンプへ参加したことのある、元キャンパー(家族含む)に対し、キャンプでの思い出・つながりが、その後の生活に良い影響を与えることを期待し、様々な形でのフォローアップを継続する。1つの具体的な形として、毎年すべての元キャンパーに、クリスマスカード、ギフトを贈る。(前年度は約400名に送付)



「元キャンパーとの手紙のやりとり」

○インターン(就労体験)の機会提供

免疫が低いことなどで、行動に制限がある元キャンパー(成人)に対し、積極的にキャンプ場でインターンとして受け入れ、就労体験の機会を提供する。



「元キャンパーのインターン」

これまでの参加者 1,148名 (2005~2020年度)



子どもの感想

病気でも、キャンプに行けてみんなと遊べて楽しいこともあるんだ。

こんなに楽しいことがあったら、この先変わるんじゃないかなと思う。

家に帰っても、一週間くらいキャンプのことしゃべらなかつた。もったいない気がする。

再発して、再入院して、いやだったけど、またそらぶち行けるのかなあ。

一人じゃないんだ仲間がいるんだと初めて感じる事ができた。



子どもの感想

親の感想

病児、きょうだい、両親、一緒に楽しめたので、家族同士のいろいろな表情を発見できた。あらためて「家族一緒」が一番楽しいと感じた。

普段の生活に制限がある中で大自然で過ごしたキャンプは羽ばたいたような気持ちだった。

私たち家族にとってこのキャンプ地は、新しい生活のスタートになった。

そらぶち キッズキャンプ

親の感想

こんなに楽しい日が来るとは、数年前には想像もしていなかった。これまで家族みんなで頑張ってきて良かった。

普段の生活に制限がある中で大自然で過ごしたキャンプは羽ばたいたような気持ちだった。

私たち家族にとってこのキャンプ地は、新しい生活のスタートになった。

キャンパーの居住地
(2005年~2020年度)

※アニュアルレポート抜粋

2. 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及（広報 PR・ファントレジンガ）

(1) 広報イベント・PR 活動の実施

○キャンプ場一般公開イベント

医療ケア付キャンプ場を、個人で見学できる機会として一般公開イベントを実施する。

→本年度は、WEB を活用し遠隔の病室や自宅にイベントの映像配信を試行（協力：ウルトラマン基金）



「キャンプ場一般公開イベント」

○写真展の開催

キャンプ中の子どもや家族の様子を伝えるため写真展を開催。（協力：小西貴士氏）

→本年度は、各種イベント会場、協力大学キャンパス、モンベル店舗での開催を予定



「キャンプの様子を伝える写真展」

○キャンプ場見学の受け入れ、全国各地でのPR講演他

企業団体単位のキャンプ場見学の受け入れや全国各地でPRのための講演等を行う。

(2) インターネットによる広報活動

○ホームページ

スマホ閲覧、SNS 連動の改善、英語版の充実、クレカ及び電子マネー決済の対応、リアル事業等と連動したWEB パーク、WEB チャリティショップの企画検討他



「WEB チャリティオークション」

○Facebook、YouTube、Instagram 他

リアル事業やホームページ、SNS 間での連動強化。

○WEB チャリティオークション他

付加価値のあるグッズ寄贈を受け、WEB 上で寄付投票を行う。 →8 月ドラッグストアショーで試行予定



「アニュアルパンフレット他」

(3) 広報ツールの充実

○資料 →アニュアルパンフレット、リーフレット他

○映像 →プロモーション映像、TV 録画映像ほか

○オリジナルグッズ（写真カレンダー他）

→闘病中の子どものイラスト入りエコバック・T シャツ等を製作・配布。 協力：ワイズコーポレーション



「グッズ(エコバック・T シャツ)」

(4) マスメディアへの露出

キャンパー及び家族の心情に配慮しつつ、知名度を上げるため、テレビや新聞、雑誌等マスメディアへの積極的な露出を図る。(→本年度は未定)



「東京マラソン関係でのテレビ放映」

(5) 企業・団体への支援依頼活動

○賛助会員、寄付(継続)依頼 他

活動への賛同表明の形の1つとして、資金面での継続支援を依頼する。

○寄付つき応援キャンペーン

自社商品の売上に応じて寄付をするなど、企業活動に関連した継続支援を依頼する。

「ドラッグストア業界の支援事例」

メーカー名	対象応援商品	ドラッグストア名など
ユニ・チャーム	オムツ	マルエドラッグ どらっぐぱぱす サツドラ
神戸屋	食パン	キリン堂
アサヒ飲料	レモネード飲料他	
キリンビバレッジ	炭酸飲料、ジュース	
山崎製パン札幌工場	ランチパック ※一部 菓子パン他	北海道内の 主要量販店
山崎製パン	菓子パン他	ウエルシア グループ
クラシエ グループ	全商品	マルエドラッグ サツドラ
王子ネピア	箱ティッシュ ※一部	サツドラ
ロート製薬	目薬 ※一部	
サッポロビール & ポッカサッポロ北海道	全商品	

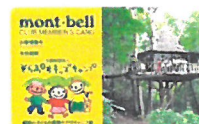
※ウエルシア グループでは、多種の応援商品を対象としキャンペーンを実施

「その他の支援事例」

・自動販売機、ランタン、農産品、ミドリウオーター、灯油、会員カード、ジム利用 他

(事例紹介：コールマン)

(事例紹介：モンベル)



○支援者イベントでのブース出展等 PR

- 8月 JAPAN ドラッグストアショー@東京
- 10月 東京マラソン関連イベント@東京
- 3月 東京マラソン関連イベント@東京 他



「イベント展示ブース出展での PR」

○店頭募金箱設置協力依頼

日本チェーンドラッグストア協会 (JACDS) を通じて協力依頼を行い全国のドラッグストアに募金箱を設置。

(2008年～現在、2億円を超える募金が集まった。)

→各種銀行の手数料の新設・増額が課題

→キャッシュレス募金の併用を調整中 (PayPay 他)



「店頭募金箱」



「店頭募金箱用シール」



「店頭募金箱用ポスター」

(6) 個人への支援依頼活動

- ・ SNS 他での情報発信を行いながら、個人の関心層 (ファン他) を増やす。
- ・ 支援企業が実施する寄付つき応援キャンペーンへの参加を依頼。(SNS 他を通じて)
- ・ 活動趣旨に賛同を得た段階では、各種チャリティグッズ購入依頼を行うとともに、応援会員、寄付(継続)など資金協力の依頼を行う。

3. 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究 (調査研究事業)

キャンプ体験の効果については、キャンプ後アンケートや保護者及び主治医へのヒアリングを通じ、継続的に記録収集・分析を行い、調査研究に取り組む。

(協力: SFCN ほか)

なお、関連学会 (医療系・野外活動系) 等との関わりについて、現段階での参加は、ネットワーク拡大及び職員研修を目的とする。

4. 「SeriousFun Children's Network (SFCN)」との連携の強化

SFCN との連携強化のため、正会員に求められるキャンプ運営上の様々な基準に対応するとともに、SFCN 理事会及び研修会の WEB 参加などにより各種情報交換を行う。

特に、本年度は新型コロナウイルス (Covid-19) の情報交換を積極的に行い、新たなガイドライン作成に取り組む。

「SeriousFun Children's Network(SFCN)」 ※アニュアルレポート抜粋

シリアスファンは、ハリウッド俳優、故・ポールニューマン氏が米国に創設した、難病の子どもと家族のための医療ケア付キャンプの世界的なネットワークであり、そらぶちは、アジア（中東を除く）初の公認キャンプ場となります。シリアスファンでは、定期的な現地審査と書類審査により、世界基準の安全性とサービスの質の認定を行っており、そらぶちは、2016年11月より正会員として加盟しています。



キャンパーたちと故・ポールニューマン氏 (中央)



シリアスファン加盟により、新しいロゴになりました

「シリアスファン公認キャンプ場・所在地 (16カ所)」

米国フロリダ、米国ニューヨーク、米国オハイオ、
米国コネチカット、米国ワシントン、米国ミシガン、
米国カリフォルニア、米国コロラド、米国ノースカロライナ

アイルランド、ハンガリー、
イタリア、イスラエル、
フランス、イギリス、日本 (そらぶち)



シリアスファンチルドレンズネットワーク

フルメンバー、プロビジョナルメンバー (専用建物を持つキャンプ) グローバル・パートナーシッププログラム (建物を持たずプログラムを行うキャンプ)

シリアスファンとして、アメリカ (米国)、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界中で、16カ所の公認キャンプ場の運営と多数のキャンププログラムの提供を行っており、これまで50以上の国々から70万人を超える、難病の子どもと家族を無料でキャンプに招待しています。